

神対応で行方不明者を保護

松永希代江さん（田之尻町）

見附署の星署長は先月30日、同22日夜に行方不明となっていた高齢女性を発見保護し、見附署へ同行した松永希代江さん（田之尻町・39歳）に感謝状を贈った。松永さんは社会福祉法人見附福祉会が運営する特別養護老人ホーム・ケアガーデン新幸に勤務する介護士で、日頃の仕事や研修を通じて培った感覚を生かした対応は「神対応」と感じられるものだった。（M）

特別養護老人ホームで勤務

仕事で培った感覚生かして

先月22日の午後9時30分頃、松永さんは田之尻町の自宅から夜勤に向かう途中、前方を歩いてい

傘も持たず、軽装でサンダル履きの高齢女性が心配になって引き返した。松永さんが最初に高齢女性にかけた言葉は「見附警察署に忘れ物（落し物）を届けに行きたいが、場所が分かりませんか」。

「何をしているのですか」と声をかけようと思ったが失礼に当たるとは考えた松永さんは、この地域に住む方なら土地勘があると思い、そうしたことを確認するための最初の声掛けだった。

高齢女性は「分からない」と答えたが、いろいろな質問にはっきりと答え、しばらく後をついていくと、家に帰る途中と

すと、高齢女性は「夜遅くなって家が分からなくなった。お願いします」と話して車に乗った。

見附署に着くと高齢女性には「なんで警察なの…」と話したが、松永さんは「忘れ物を届けに一緒に」



として見附署に入った。

その時点は、高齢女性の家族が見附署に来て捜索を要請した数分後。見附署が捜索を始める体制を取って出発する寸前、

市の緊急メールによる情報発信もまだという状況で、高齢女性はけがなどもしていなかった。

星署長は「高齢化が進む今日の重大な社会問題の一つで、当然、警察が取り扱うことが多い事案」とし、次のように話した。

時間の経過によっては生命に関わってくる重大な事案。早いタイミングで保護していただいてあ

りがたかった。

最初に「警察へ行く」と言う構えられてしま

りではなく、仕事や研修を通して培った感覚をこ

うした場面で生かして発見、保護していただいた。

松永さんは「介護の仕事をしていなかったら声の掛け方が分からず、声を掛けられたかどうか」

「研修や先輩の指導を生かすことができたが、こうした場面で声を掛けるのは勇気が必要だと改めて感じた」と話していた。